

病虫害発生予察情報

病虫害発生予察情報（飛騨地域） 6月予報

【 果樹 】

せん孔細菌病（モモ） ※R3.5.28 病虫害発生予察注意報第1号を発表

昨年度は、秋季の台風被害は無かったものの本病の発生が多く、本年5月の現地調査でも本病の発生が確認されています（図1）。本病の周辺への伝搬を防止するため、**罹病枝とその周辺の新梢葉など**、伝染源となる部位は、**見つけ次第除去し「ほ場外への持ち出し処分」**を徹底してください。また、多発ほ場では果実への感染防止を図るため、摘果を丁寧に行い、早めに袋かけを行いましょう。

【 野菜類 】

ネキリムシ類（カブラヤガ） ※R3.5.7 病虫害情報第2号を発表

丹生川町内に設置したフェロモントラップにおいて5月第1～第4半旬の累計誘殺数は **92.6頭**とH29～R2年の3か年の平均（104.7頭）とほぼ同等であるものの（図2）、平年よりも1か月早い4月から誘殺されています。また、成虫の発生ピークが5月第2半旬にみられるため、幼虫被害は、6月第1～2半旬頃に発生のピークを迎える見込みです。本虫の被害を防ぐため、周辺雑草の管理やほ場内雑草のすき込み等とともに、薬剤防除を適切に行ってください。また、施設栽培では本虫が外部から侵入してこないように、防虫ネットの下部に隙間ができないように注意して設置してください。

アブラムシ類

管内4か所に設置した黄色水盤トラップによる、アブラムシ類平均累計誘殺頭数は、5月第4半旬までで、**120.5頭**（平年 **44.5頭**）と多く推移しています（図3）。ほ場内をよく観察し、**発生が認められた場合は速やかに防除を実施**してください。

タネバエ

管内2か所に設置したトラップのタネバエ累計平均誘殺頭数は5月第4半旬までで、**69.0頭**（平年 **23.0頭**）と多く推移しており（図4）、ほ場によっては作物の食害等の被害が報告されています。本虫は未熟な有機物等の臭気に誘引されるため、**未熟堆肥等の施用は避ける**とともに、施設栽培では入り口に1mm目の防虫ネットを設置する等、ほ場に侵入させない対応を実施してください。

べと病（ハウレンソウ）

本年度は梅雨入りが記録的に早く、名古屋地方気象台の長期予報では今後も曇雨天が多くなるとされており、本病の発生が懸念されます。また、すでに飛騨地域において本病の発生が報告されていることに加え、昨年度、**本病のレース1～12抵抗性品種でも発病するレース13が県内で初確認**（R2.8.11病虫害発生予察特殊報第3号）されており、抵抗性品種でも本病の発生に注意が必要です。

本病は**低温多湿条件で多発**するため、**ほ場の排水、通気や採光を良好**にし、過繁茂とならないよう肥培管理に注意してください。また、**発病株や罹病残渣等**は伝染源となるため、**速やかにほ場外に持ち出し処分**してください。

○主な病虫害の発生状況及び今後の予測（6月）

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水	生育(高山市)	並							
	葉いもち	やや多			<初発生>				葉いもち 補植苗は発生源になるので早めに除去する。
	イネミズゾウムシ	少	<幼虫孵化最盛期>						
稲	イネドロオイムシ	少	<幼虫発生期>						イネミズゾウムシ 箱施薬を実施していないほ場や、多発時には本田防除を実施する(防除の目安:夕方の100株当たり寄生数が30頭以上)。 イネドロオイムシ 箱施薬を実施していないほ場や、多発時には本田散布を実施する。
	防除適期		▲←	▲←	▲←	▲←	▲←	▲←	
				▲←	▲←	▲←	▲←	▲←	

注) ▲、▲←→▲:防除適期

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
ホウレンソウ	べと病	並	< 発 病 適 期 >						べと病 発病に好適な時期になるため、感受性品種では薬剤による防除を必ず行う。
	防除適期		▲← べと病(感受性品種、防除) →▲						
トマト	灰色かび病	やや多	< 初発生 >						灰色かび病 花がらや葉先枯れは早期に除去する。
	葉かび病	並	< 初発生 >						
	防除適期		▲← 灰色かび病(予防的防除) →▲ ▲← 葉かび病(予防的防除) →▲						
野菜全般	コナガ	並	< 第1世代幼虫最盛期 >						コナガ 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。 アブラムシ類 定植時に粒剤施用する。高温乾燥が続くと多発する。防虫ネット・シルバーマルチで飛来を抑制する。 ネキリムシ類 幼虫対策として、ほ場内及び周辺の雑草管理を徹底する。成虫対策として、施設栽培では防虫ネット等を設置する。
	アブラムシ類	やや多	< 第1世代幼虫最盛期 >						
	ネキリムシ類	並	< 第1世代幼虫最盛期 >						
	防除適期		▲← コナガ(ローテーション防除) →▲ ▲← アブラムシ類(防除) →▲ ▲← ネキリムシ類(カブラヤガ)(防除) →▲						
果	生育(高山市)	早	< 第1世代成虫最盛期 >						シンクイムシ類 新梢伸長期の防除を重点的に実施する。 カメムシ類 飛来状況に注意し、適期防除に努める。 せん孔細菌病 罹病部位は見つけたら切除する。また、多発するほ場では早く袋かけを行う。
	シンクイムシ類	並	< 第1世代成虫最盛期 >						
	カメムシ類	並	< 越 冬 世 代 成 虫 >						
	せん孔細菌病(モモ)	多	< 感染拡大期 >						
樹	防除適期		▲← カメムシ類(果樹園飛来時) →▲ ▲← せん孔細菌病 →▲						

注) ▲、▲←→▲:防除適期

調査データ ほか



図1 せん孔細菌病罹病葉(初期症状)(R3.5月撮影)

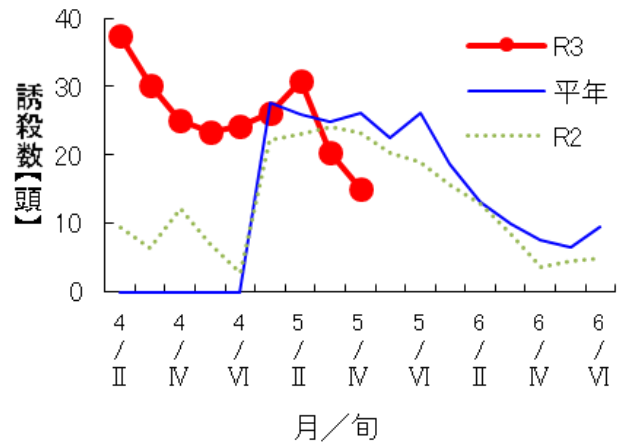


図2 ネキリムシ類(カブラヤガ)誘殺数の推移(高山市丹生川町)

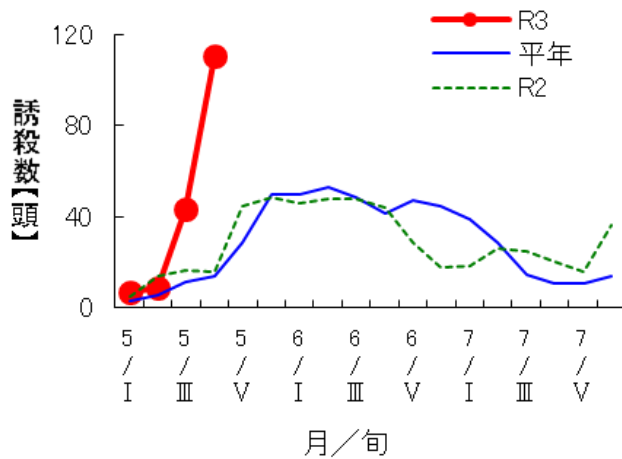


図3 アブラムシ類誘殺頭数の推移(高山市下林町)

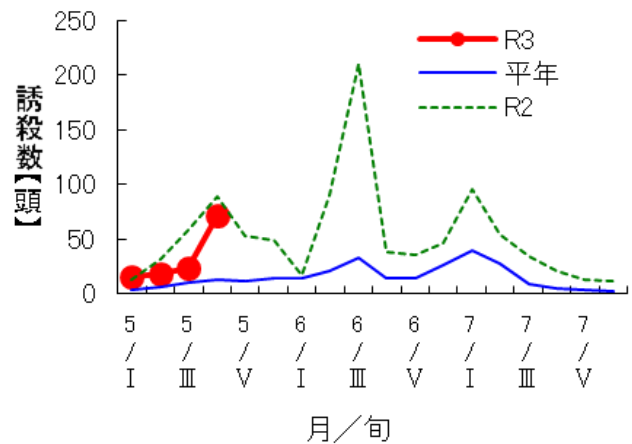


図4 タネバエ誘殺頭数の推移(高山市下林町)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 5月27日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量及び日照時間は平年並で曇りや雨の日が多いでしょう。期間の前半は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受けるため、天気は数日の周期で変わるでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706